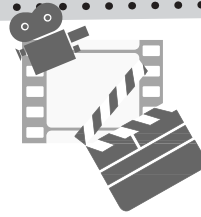


「映画で考える家族、友情、生き方…」



11月17日（土）保健福祉センターにおいて“視覚を通して心に語りかける”をコンセプトとして、映画の上映を取り入れた公開学習会を開催しました。

上映作品は、作家・瀬尾まいこ原作の「幸福な食卓」。静かに展開する映画を通して、一人ひとりが家族や生き方について考える良いひと時となりました。参加者42名（男性8名、女性34名）

★ 映画のストーリー ★

3年前のある日、突然訪れた父さんの“心の崩壊”。その日から、主人公佐和子の家族の歯車が少しずつ狂い始める。成績はいつも学校で一番だった兄の直ちゃんは大学進学を突然辞めて農業をやり始め、母さんは家を出てアパートで一人暮らしを始める。そして「父さんは、今日で父さんを辞めようと思う」の突然の一言。転校生の大浦君との絆の深まりを通して成長する佐和子の目線から描かれる“家族の崩壊と再生”の物語。

Yahoo! 映画より抜粋

当日の様子・感想

上映後、いくつかのグループに分かれてお互いの感想を話し合いました。

参加者から活発な意見や提言があり、当たり前と思っていた家庭のあり方を考え直してみる良い機会となりました。

人は誰でも家庭によりどこを求め、その家庭は、温かさや安心を与えてくれる場であり、社会の基礎となる場所だと思います。

家庭の力を取り戻すためには、一人ひとりが個人として尊重されながら責任とお互いの気持ちを分かち合うことが大切なのではないでしょうか。



参加者の声 (当日の感想文より)

ほのぼのとしていて心が温くなる映画でした。4人家族になってまだ数年しか経っていませんが、各々が年をとるにつれて、家族の歯車が狂ったり、元通りになったりするのだろうと思いました。そんな時は、こんな風に自然に家族が結束できたらいいと思いました。(30代・女性)

とても素晴らしい映画だと思った。肩の力を抜いて生きることにも必要だと感じた。もっと家族に甘えてもいい。自分が気づかないところで守られているなどの一言一言が心に残ります。(40代・女性)

ゆったりした時間の中で重みのあるストーリーでした。「気づかないところで守られている」本当にそうですね。一人ひとりが相手を思い、日々の生活を送っていけたら心地よい毎日になるのだと。家族を大切にしていけることから男女共同社会が始まるのでは・・・。(60代・女性)

崩壊寸前の家族の物語ですが、友達の死というこれ以上ない悲しい事故がさらに重なり、再生家族になることは不可能と思われたが、家族の一人ひとりが相手を思いやり、家族の大切さをあらためて考え、明るい未来が見えてきたと思う。非常に意義深い映画でした。(70代・男性)

市民の日アンケート 調査結果

恒例となった「ホームシェフの焼きそばデモンストレーション」。

今年は、南中学校3年生の10名のボランティアさんが来てくれました。

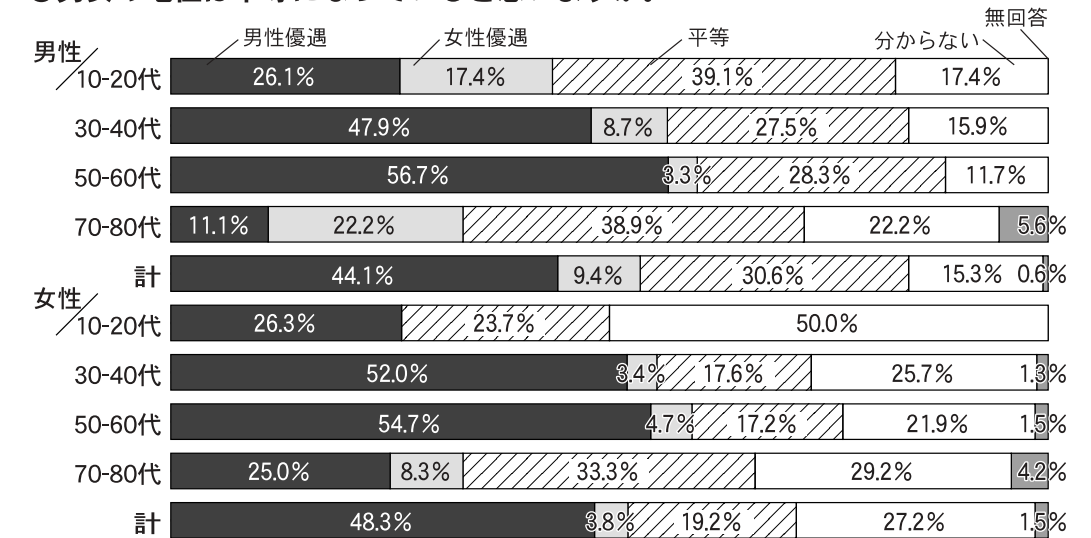
「アンケートに答えると焼きそば100円!!」の元気な声に集まったアンケート協力者は何と508名。(男性170名、女性338名)

中学生の参加は、若い人たちが男女共同参画への意識を高めることにもなり、大変良かったと思います。

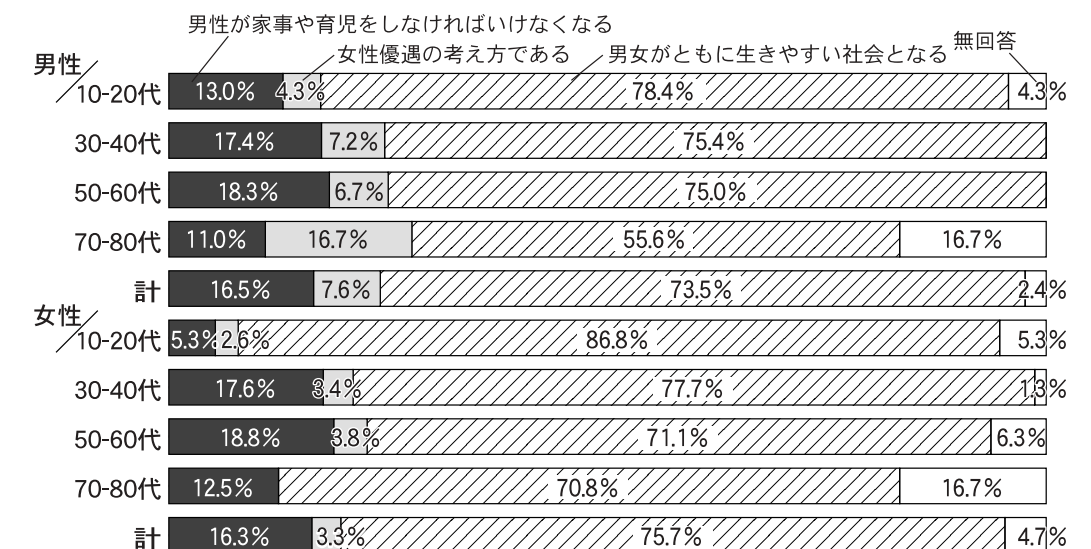
(紙面の都合上、調査結果は一部抜粋して掲載します。)



● 男女の地位は平等になっていると思いますか。



● 男女共同参画と聞いてどのように感じますか。



『日本女性会議ひろしま2007』に参加して

10月19、20日の日程で全国から4000名が集まって「日本女性会議ひろしま2007」が開催されました。

広島国際会議場で受付をすませた後、16の分科会に分かれての研修があり、第7分科会「生きる力を育てるために」をテーマとしたキャリア教育部門のシンポジウムに参加。

キャリア教育は就学前から、つまり、それぞれの家庭教育

から始まる。赤ちゃんの時から「あなたが大切」を伝えること、生きる力を育てること。それは未来を作る人を育てることにつながる。

大切なのは自己理解をすること。成功のみではなく、失敗してもその時にどうしていくかという力をつけることだというを確認しました。(信田記)